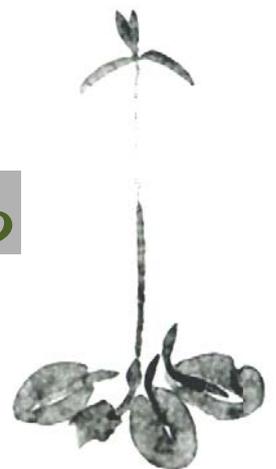


市指定重要文化財（天然記念物） 腰掛神社の樹叢

平成21年度 文化資料館特別展

茅ヶ崎の小さな森たち
— 鎮守社の自然 —



茅ヶ崎市教育委員会

はじめに

かつて、われわれの祖先は、森を開拓することで、家、田畑、集落、そしてムラを作ってきました。先人たちは、開発を行いながらも、尾根筋・斜面・水際といった人間の干渉に敏感な自然は残し、そこに畏敬の念を込めて、神社や祠を祀ってきました。そして、鎮守社は神聖なる領域であるため、みだりに手を入れられずにきました。

茅ヶ崎市文化資料館では、平成 19（2007）年 4 月から、市民と協力して茅ヶ崎市内の神社の社叢林の植生調査を行っています。小さな森である神社の自然を調べることは、本来の自然である潜在植生を探ることになります。身近な存在である神社の多様な自然や、都市化の進んだ茅ヶ崎の本来の自然の姿を知る端緒となるのではないかと考えたからです。

市内にある 38 社のうち、23 社の調査が終わっているため、中間報告を兼ねて特別展を開催いたします。また、調査で収集したデータをもとに、お正月などの年中行事、お宮参りや七五三などの人生儀礼で訪れている神社を、「まちの中の森」という視点から紹介します。また、自然と人間の営みの境にある、地域の神社の自然や、かつての人々の自然との向き合い方、現在の社叢林を知ることで、「くらしと自然」というものを見つめる機会としたいと考えています。身近な存在である神社の多様な自然、都市化の進んだ茅ヶ崎の本来の自然の姿を、小さな森である神社の自然を通じて市民の皆様にご覧いただきたいと思っております。

茅ヶ崎市の自然について

茅ヶ崎市は東西 6.94km、南北 7.60km、周囲 30.46km で面積が 35.76 km²です。南は相模湾に面し、北は高座丘陵の最南端で、火山灰や軽石が堆積した関東ローム層からなる丘陵地があります。丘陵地から海岸に至るまでは西側の半分は、河川が運んだ土砂の堆積物などによる沖積低地の平地、丘陵の南面から海岸の砂で形成された砂丘地があります。

北部の丘陵地は、雨水や河川の浸食によってできた数多くの谷戸があり、湧水にも恵まれ、クヌギやコナラなどの雑木林やスギやヒノキなどの植栽林があります。豊かな植物層と生態系が保たれ、堤の天神原や清水谷などでは、その豊かな自然にふれることができます。

沖積低地は、宅地造成が進む以前は広々とした農耕地であり、屋敷林や社寺林は樹木で覆われ、現在でも一部の地域では以前の姿のままで保全されて残存しています。河川流域は農耕地の水利となり水田耕作に重要な役割を果たしています。このような草原では多様な動植物を観察できます。

砂丘地の大部分は住宅地となり、小高く起伏した砂丘上には砂防林のクロマツが海岸線を彩り、海浜性植物も多く見ることができます。

今回は、前述の地形やその土壌ごとにそもそもの植生である潜在植生を探る意味も含めて、丘陵地、平地、砂丘地に分けて調査を行っています。



茅ヶ崎市の神社について

はじめに、当市の神社についてご紹介します。当市各地区の神社は、その祭祀組織から、4 つに分類することができます。

- ①旧村（江戸時代の村）で祀り、村人全員が氏子となって祭祀組織を構成する神社（いわゆる鎮守・氏神と呼ばれるもの）
- ②村の中の組で祀る神社
- ③村組内の組織である近隣組、あるいは数戸が共同で祀る神社（当市では、経済・日常生活の面で一定の社会関係をもつイエの連合体で祀る神社は顕著ではありません）
- ④一戸の家で祀る神社（屋敷神）

例えば、北部の芹沢・中ノ谷のある家では屋敷神として稲荷を祀り、毎年二月初午に祭りを行う一方、中ノ谷全体で祀る神明様の祭祀にも参加しており、さらに芹沢全体で祀る腰掛神社の祭祀にも参加しています。また、南部の南湖下町にはモクベエ神社とよばれる稲荷社があり、社の近隣9戸で祀りますが、これらの家は下町全体で祀る住吉神社の祭祀組織の一員でもあります。芹沢で祀られる稲荷は先述の④にあたり、モクベエ稲荷は③、中ノ谷の神明様、南湖下町の住吉神社は②、腰掛神社は①にそれぞれ該当します。①～④の神社のあり方は、各地区で一律ではなく、決して固定的なものではありません。歴史の中で変遷がみられます。市内各地区には①～④の祭祀組織に支えられ続けてきた神社があり、①の鎮守を頂点として重層的な祭祀組織ができているといえます。

表1は①の鎮守社をまとめたものです。表から、鎮守は1村1鎮守となっていることが分かります。これは『新編相模風土記稿』*にも記されており、江戸時代末期にはすでに1村1鎮守でした。

鎮守は、かつての集落のまとまりを捉える概念であるムラを考えるのに不可欠な要素です。単に信仰対象という側面だけではありません。鎮守は、ムラの家々の連帯であり、一つの結集点でもあります。近世にムラが成立していく中で、そこで生活を営む人々のまとまりと鎮守が同時に確立していったと考えられます。その意味において、現在も残る鎮守社は、近世からの自然が残されている可能性の高い場所として捉えることができる貴重なフィールドであるといえます。

* 天保12(1841)年に編纂された相模国の地誌。相模国に所属する郡・村の沿革・地誌を網羅したものの。

表1 茅ヶ崎の鎮守社

	旧村名	神社名	氏子の範囲		旧村名	神社名	氏子の範囲
1	茅ヶ崎村	八王子神社	旧茅ヶ崎村	16	中島村	日枝神社	中島
2	茅ヶ崎村	巖島神社	旧新町	17	松尾村	神明神社	松尾
3	茅ヶ崎村	第六天神社	十間坂	18	柳島村	八幡宮	柳島
4	茅ヶ崎村	金刀比羅神社	南湖上町	19	香川村	諏訪神社	香川
5	茅ヶ崎村	八雲神社	南湖中町	20	甘沼村	八幡大神	甘沼
6	茅ヶ崎村	住吉神社	南湖下町	21	赤羽根村	神明大神	赤羽根
7	茅ヶ崎村	御霊神社	鳥井戸	22	高田村	熊野神社	高田
8	萩園村	三島大神	萩園	23	室田村	八王子神社	室田
9	平太夫新田	八幡神社	平太夫新田	24	菱沼村	八王子神社	菱沼
10	西久保村	日吉神社	西久保	25	小和田村	熊野神社	小和田
11	円蔵村	神明大神	円蔵	26	行谷村	金山神社	行谷
12	矢畑村	本社宮	矢畑	27	芹沢村	腰掛神社	芹沢
13	浜之郷村	鶴嶺八幡社	浜之郷	28	堤村	建彦神社	堤
14	下町屋村	神明神社	下町屋	29	下寺尾村	諏訪神社	下寺尾
15	今宿村	松尾大神	今宿				

表2 調査対象神社

	地形区分	地域名	神社名	調査年月日	標高(m)*
◎	丘陵地	芹沢	腰掛神社	2009 . 4.24	29
◎	丘陵地	堤	建彦神社	2009 . 4.25	41
◎	丘陵地	行谷	金山神社	2009 . 9.24	28
◎	丘陵地	甘沼	八幡大神	2007 . 12.7	33
◎	砂丘地	室田	八王子神社	2008 . 9.26	13
◎	砂丘地	萩園	十二天神社	2009 . 5.22	4
◎	砂丘地	赤羽根	神明大神	2008 . 6.27	15
◎	砂丘地	南湖	金刀比羅神社	2009 . 1.23	4
◎	砂丘地	菱沼	八王子神社	2008 . 9.26	13
◎	砂丘地	十間坂	神明宮	2008 . 10.31	6
◎	砂丘地	小和田	熊野神社	2008 . 5.23	10
◎	砂丘地	十間坂	第六天神社	2008 . 10.31	10
◎	砂丘地	南湖	住吉神社	2008 . 3.28	4
◎	平地	今宿	松尾大神	2007 . 11.2	15
◎	平地	萩園	三島大神	2009 . 5.22	4
◎	平地	浜之郷	鶴嶺八幡社	2008 . 2.8	6
◎	平地	平太夫新田	八幡宮	2008 . 10.17	-
◎	砂丘地	南湖	八雲神社	2009 . 1.23	8
◎	平地	南湖	御霊神社	2009 . 1.23	3
×	砂地	新栄町	巖島神社	-	7
◎	砂丘地	香川	諏訪神社	2009 . 6.26	14
◎	砂丘地	下町屋	神明神社	2009 . 6.19	2
◎	砂丘地	高田	熊野神社	2009 . 6.26	9
×	砂地	中海岸	中海岸神社	-	-
×	丘陵地	山田谷	羽黒神社	-	25
×	丘陵地	市民の森横	八王子神社	-	25
×	砂地	本村	八王子神社	-	10
×	平地	円蔵	祇園社	-	6
◎	平地	円蔵	山王社	2008 . 10.17	6
×	平地	円蔵	神明大神	-	6
×	平地	西久保	日吉神社	-	5
×	平地	萩園	八幡社	-	-
×	平地	中島	八坂神社	-	-
×	平地	中島	日枝神社	-	3
×	平地	松尾	神明神社	-	2
×	平地	柳島	八幡宮	-	3
×	砂地	柳島海岸	巖島神社	-	3
×	平地	矢畑	本社宮	-	4

◎ : 調査済

× : 未調査

*1. 神奈川県社寺林調査報告書S47年度県教委

当市における最初の植生調査は、昭和 48（1973）～49（1974）年に当地での踏査が行われ、その結果は『茅ヶ崎市の植生』（宮脇昭・藤原一繪,1976）にまとめられています。また、神奈川県教育委員会による社寺林調査が過去に3度行われており、その結果は『神奈川県社寺林調査報告書 第一次調査』（神奈川県教育委員会,1974）、『神奈川県における社寺林の植物社会学的調査・研究 一神奈川県社寺林調査報告書 第2次調査一』（宮脇昭ほか,1979）、『社寺林指定調査報告書』（神奈川県教育委員会,1994）で報告されています。

今回、当館で社叢林調査を行うにあたり、過去の調査記録と比較研究することができないか検討しました。しかしながら、過去の調査方法が不明確なこと、また過去の調査結果が図表等を用いて細かな数値で把握できないことから、1970年代と比較するのではなく、現在の状態を記録保存することに調査目的を設定しました。

神社の樹木

森は、芝生や草原とは異なり、図のような立体的な多層構造をしています。高木層、亜高木層、低木層、下草が多層群落を形成し、さらに土の中のカビやバクテリアなどが、限られた空間の中で生きています。

タブノキやスタジイなどの常緑樹林は、高い層を構成します。その下の亜高木層にヤブツバキ、モチノキ、低木層にアオキやヤツデ、草本層にベニシダやヤブランなどが生育しています。

マント群落・ソデ群落は、外から森に風や直射日光を防いだり、他の植物が入ってこないよう保護したりする役目を果たしています。クズやフジ類などのツル植物がマント群落を、草原生のネザサ、ススキ類がソデ群落を構成します。

緑の孤島のように住宅街にある鶴嶺八幡社も、調査の結果、狭いながらも立体的な森を形成していることが分かりました。特にマント群落・ソデ群落が形成されていたことは、鶴嶺八幡社の森が自立して持続できる仕組みをもっていることの表れだと考えられます。マント群落は、野鳥や昆虫の食物となる種子をつけ、群落によって守られた森は隠れ場所や休息地になります。

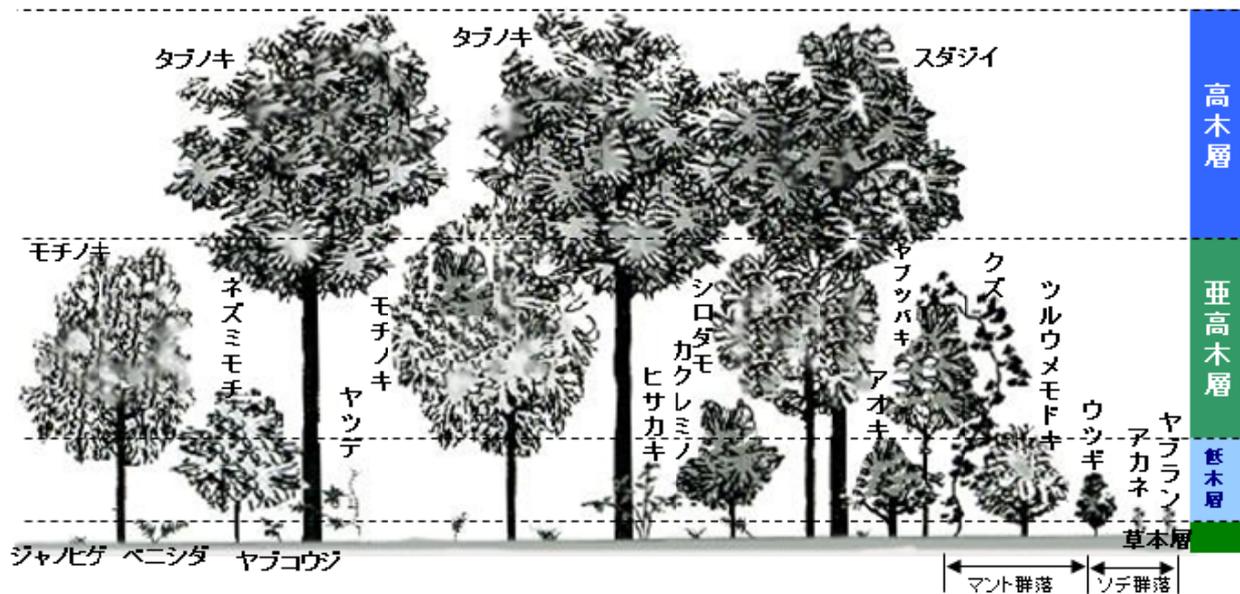


図1 階層構造図



写真1 鶴嶺八幡社のマント・ソデ群落

神社と動物

都市化とともに茅ヶ崎の街並みも大きく変化してきました。しかし市街地の社寺林でも、タヌキやムササビが住んでいたとか、フクロウがいたなどの話を聞くことがあります。

社叢林の植物の花にチョウやハナアブ、ハナムグリなどの昆虫がやってきます。植物は昆虫に花粉や蜜を与えるかわりに、花粉を運んでもらいます。また植物を食べるケムシやハムシ、落葉を食べる土壤動物やキノコもあります。

樹林の低い位置を見ると、アオキやシュロ、ナンテン、ネズミモチなどがあることに気づきます。これらは野鳥によって運ばれた種子から芽生えたものと考えられます。

また貯食^{ちよしよく}といって、ネズミ類やコゲラなどの野鳥が土の中や樹皮にドングリなどの種子を隠します。すべてが見つかり食べてられるのではなく、そのうちのいくつかは忘れられて発芽することもあります。

社寺の木々でやかましくヒヨドリが騒いでいることがあります。鎮守の森がこれらの野鳥に生息場所を提供し、その一方で野鳥が森林のサイクルに手を貸しているのです。



写真2 コゲラ（キツツキ科）

堅果（ドングリ）

古くから「ドングリころころ…」と童謡でも親しまれるドングリは、日本のヤジロベエやコマなどの古典的な玩具の材料になっています。子どもの頃、近くの山や林に拾い集めに行かれた方も多いでしょう。

ドングリは常緑広葉樹のシイ、タブ、カシ類、落葉広葉樹のコナラ、クヌギ、アベマキなどの木に生^なり、はかま^{かくと}（殻斗）のついている果実の俗称です。植物学的には、堅果^{けんか}といいます。また、ブナやミズナラ、カシワなど、山地の主な木々もドングリをつけます。

ドングリの種子をつけ、大木になるブナ科などの広葉樹は、鎮守の森の高い部分を構成する大切な木々です。シイ、カシ類などのドングリは9月下旬から11月頃に落ちます。地面に落ちたあと、しばらく土の中で過ごし、春に発芽^{みしょう}します。これを「実から生まれた」ということで、実生^{みしょう}といいます。



写真3 スダジイ（ブナ科）の堅果

さいごに

本展では、市内に38社ある神社のうち調査が完了している23社についてご紹介いたしました。

茅ヶ崎市は全国でも有数の砂丘地形です。かつて海であったところが、少しずつ陸に変わり、新たな大地が広がる中で、人々は土地を開拓してきました。農耕地が広がり、集落が大きくなると、人々は集落の中やその周りに八幡社やお稲荷さん、祠などを設け、自然への畏敬の念をもって祀ってきました。

その神域を調査する中で、調査をするたびに発見がありました。常緑広葉樹林が土地ごとに存在したり、内陸部に位置するにもかかわらず砂丘地であるため海浜性の草本類が確認されたり、樹叢が小さい面積ながらも、森のような多層構造をなしていたり、野鳥をはじめとした動物のオアシスとなっていたりと、社叢林がもつ多面的な部分が見えてきました。神社が育む自然を、本展を通じ感じていただければ幸いです。

そして、身近な存在である神社の多様な自然、都市化の進んだ茅ヶ崎の本来の自然の姿を、小さな森である神社の自然を通じて、考え直す機会となればと思います。

なお、本展終了後の平成22年度中には、残り15社の調査を終え、調査結果をまとめたものを『文化資料館調査研究報告 20 2011』（平成23年4月刊行予定）に報告したいと考えています。



【調査・展示制作協力者】

暑い日も、寒い日も、天気の良い日も、大変な調査活動にご尽力いただき、また、本展の準備にもご協力いただいた自然資料整理ボランティアの皆様にご心から感謝申し上げます。

天野孝子・石井準子・緒方 隆・奥野 攻・河村まき子・三輪徳子・吉田弥生・竹内民江・
目黒啓子・河野正子・野田瑞江・齊藤溢子・野田典子・渡辺俊子・鈴木節雄（敬称略・順不同）

特別展「茅ヶ崎の小さな森たちー鎮守社の自然ー」

主催 茅ヶ崎市教育委員会

茅ヶ崎市文化資料館（担当：小室明彦、須藤 格）

発行 平成22（2010）年2月

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/8112/bunkashiryokan/index.html>
shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp